
ほのぼの友情

神童サーガ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ほのぼの友情

【著者名】

NZマーク

N33355F

【作者名】

神童サーチガ

【あらすじ】

女同士の友情の話です。いつか来る別れ。友情にヒビが入るのか！？

(前書き)

こんな友情も良いかなと思いました。

「もしも、叶えられる願いなら、ランなら何を願う？」

「ウチなら・・・永遠の友情かな？」

「・・・ラン。アタシもだよ！！」

肌寒くなってきたこの頃。教室の窓からコスモスの花が見える。ランは冷たい風を頬に撫でながら、気持ち良さそうに目を細める。そんな友達を見て、ふと考えたことを聞いた。自分が望む答えを期待しながら。

「アタシ・・・怖いよ」

「カレン？」

「大学行つて大人になつて、結婚して・・・ランに友達が出来て・・・アタシだけ、一人になつちゃう」

カレンは悲しそうに目を下にむけた。

「バカだなあ・・・ウチはカレンがたつた一人の大親友だつて思つてるよ」

「アタシだつて思つてる！！」

カレンが怒鳴つたのにビックリしたラン。

何も言えずに目線を泳がす。

「不安が大きくなつていくんだ……いつか別れがくるなら一生会わないほうが良いのかなつて……！」

「……だったらウチは結婚しないでカレンの側にいるよ……」

幼稚園の頃からのようだ

「ラン……（ウチはランの幸せを奪つちゃうのかな？）」

まだ不安が拭い切れないようだ。

スカートの裾を強く握り締めてる。皺になつていても

ランはカレンの手の上に自分の手を重ねた。

「なら一緒に結婚して隣りに家を作つたりすれば良いじゃん……！」

「でも、丁度良く相手なんて……」

「どちらか待つんだよ……見つかるまで」

「そんなの……待つなんて……」

「ウチはカレン以上に大事な人なんていない

「……アタシも一番だよ」

「待つのなんて苦ぢやないよ」

「……うん」

お互に握手するよつて手を握る。

初めて会った時のよつ。

「ねえ！…キミの名前は？ウチはラン…」

「あ、アタシはカレンだよ…！」

「ウチら今日から親友だよ…！」

「えへへ…・・・親友」

温かい言葉だった。

親友。

くすぐったくて、優しくて、これ以上の言葉なんて、幼いながらも無いと思った。

大事なキミのためなら、全てを投げ出しても、助けに行くよ。
だから、友情という絆を消さないようお願いうね。

同じように手を握り締めながら…・・・

(後書き)

- 友達と隣り同士で自分達の子供も友情の絆で結ばれたら良いなと・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3355f/>

ほのぼの友情

2010年11月17日14時56分発行